



豊橋市図書館 開館 110 周年記念資料展

# この本はどこから来た？—蔵書の来歴を探る—

令和4年 12/3(土) — 令和5年 1/22(日)

主催 豊橋市図書館  
 会場 豊橋市中央図書館2階展示コーナー  
 開館時間 9:30-19:00 ※土・日・祝は 17:00 まで  
 休館日 毎週月曜 ※1/9(月・祝)は開館  
 年末年始(12/29~1/3) 12/23(金)・1/10(火)



## 豊橋市図書館開館110周年記念シンポジウム 図書館の蔵書形成史

—蔵書はどうつくれたか?—

日時 令和5年 1/14(土) 13:30~16:30  
 会場 豊橋市中央図書館3階 集会室  
 定員 80名(先着・要申込)

基調講演①「羽田八幡宮文庫の蔵書形成」  
 藤井 奈都子(愛知大学非常勤講師)  
 基調講演②「岩瀬文庫の蔵書形成」  
 塩村 耕(名古屋大学大学院人文学研究科教授)  
 事例報告 「豊橋市図書館の蔵書形成」  
 岡村 龍男(当館学芸員)  
 パネルディスカッション「蔵書はどうつくれたか」  
 司会:岩瀬 彰利(当館主幹学芸員)  
 パネリスト:藤井 奈都子・塩村 耕・岡村 龍男  
 ※当館 HP のイベント予約システムにてお申込みください。  
 12/3(土)受付開始

豊橋市中央図書館 〒441-8025 豊橋市羽根井町 48 TEL:0532-31-3131

## 豊橋市図書館開館 110 周年記念資料展

### この本はどこから来た？－蔵書の来歴を探る－

令和4年12月3日(土)～令和5年1月22日(日)

開館110周年を迎える豊橋市図書館には、約110万点の蔵書があります。開館以来書き継がれてきた「図書原簿」には、どの本を「いつ」、「どこから」手に入れたかが記されています。豊橋市図書館は、江戸時代の「羽田八幡宮文庫」の旧蔵書を中心としながらも、吉田藩校時習館から引き継いだ資料などを蔵書として開館しました。

今回の展示は、豊橋市図書館の蔵書の来歴を、これまで注目されてこなかった「図書原簿」と「蔵書印」を分析し明らかになった成果を紹介します。豊橋市図書館では、開館後、収書活動を行うなかで、江戸時代の大家や平沼騏一郎、渋沢栄一、徳富蘇峰などの近代著名人の旧蔵書が縁あって豊橋市図書館の蔵書となりました。また、戦後は市内の蔵書家からも図書の寄贈を受けたため、実に多様な来歴がある図書を所蔵することになりました。

## 記念シンポジウム

### 図書館の蔵書形成史－蔵書はどう作られたか－

愛知県は、全国でも屈指の豊かな古典籍が遺されている地域です。熱田神宮や猿投神社といった神社の蔵書、尾張徳川家の蓬左文庫などが全国的に知られています。また、現在は自治体が管理している文庫でも、豊橋市の羽田八幡宮文庫、名古屋市の河村文庫、西尾市の岩瀬文庫、刈谷市の村上文庫などがひろく知られています。

文庫というと、一般的には蔵書数や文庫を形成する個別の希少図書に注目が集まりがちですが、羽田八幡宮文庫については、蔵書と共に豊富に残された活動の実態がわかる関連資料から、幕末にはすでに行っていた積極的な図書館活動が多くの研究によって明らかにされてきました。

豊橋市図書館開館110周年にあたる今年度、当館では開館時から書き継いできた「図書原簿」と、それぞれの図書に押された旧蔵者の「蔵書印」に注目した調査を行った結果、豊橋市図書館(当時は豊橋市立図書館)は羽田八幡宮文庫旧蔵資料を中心としながらも、吉田藩校時習館の引継図書や旧吉田藩士や郷土史家からの寄贈などによって蔵書を増やしていったことがわかりました。

今回のシンポジウムは、羽田八幡宮文庫と岩瀬文庫の蔵書形成過程を紹介するとともに、豊橋市図書館が開館後に行ってきた蔵書形成のありようを紹介します。

令和5年1月14日(土) 13:30～16:30

基調講演①「羽田八幡宮文庫の蔵書形成」 藤井 奈都子(愛知大学非常勤講師)

基調講演②「岩瀬文庫の蔵書形成」 塩村 耕(名古屋大学大学院文学研究科教授)

事例報告 「豊橋市図書館の蔵書形成」 岡村 龍男(豊橋市図書館学芸員)

### パネルディスカッション「蔵書はどうつくられたか」

司会:岩瀬 彰利(当館主幹学芸員) パネリスト:藤井 奈都子・塩村 耕・岡村 龍男